

# 24時間使用の軍事空港建設など許さない 6.5 関西新空港反対全国総決起集会かちとる

夏を思わせる炎天下のもと、六月五日、大阪市・扇町公園において、三里塚を闘う全国の労働者・人民 一、二〇名が結集して、6・5 関西新空港反対全国総決起集会が開催された。

集会は、意岐部（おきべ）東小・辻岡氏、関西新国際空港建設反対明石住民の会代表・加辺氏の司会で開始され、「関西新空港建設は、中曽根の軍拡路線による二四時間使用可能の軍事空港ということが最大の目的だ。絶対に許してはならない。三里塚軍事空港反対と並ぶこの闘いを通して、日帝・中曽根を打倒する人民総決起の闘いとしたい」との決意あふれる訴えがなされた。

## 三里塚に学び、結合して闘う

冒頭、主催者を代表して、東灘住民の会・山本氏、現地事務所設置阻止四月行動実行委代表・森田氏が挨拶にたった。両氏は、「反動・中曽根は過日の米国におけるサミットでは、NATO同盟国でもないのに、すんで核配備と軍事同盟強化を宣言し、日本の軍事大国化・改憲への露骨な意図を内外に示した。そうした軍拡の頂点として、今日、三里塚二期攻撃とあわせて、関西新空港の建設強行を策動してきており、五月十三日関係閣僚会議をもって年内の閣議決定を狙っている。われわれは、関係住民を一切無視し、かつ労働者・人民をぐろうするこうした暴挙を絶対許さない。断固たる闘いを押し進めよう。昨年六・一五から一年間の闘いをふまえ、本日を期して工事粉砕への闘いとして突撃しよう。三里塚は、一つ一つの難関を突破して勝利してきた。こうした『東の三里塚―西の関西新空港反対の闘い』を、三里塚十八年の実力闘争に学び、闘っていききたい。結集されたすべての皆さん、共に闘いましょう」という力強い報告と挨拶がなされた。

続いて、地域住民・労組・学生等の各参加団体からの連帯の挨拶と決意表明をうけ、淡路国際空港淡路町反対期成同盟代表・永井氏より集会の基調が提起された。

## 住民圧殺の攻撃を許さない

永井氏は、「本日の集会の盛況に見られるように、地元関西はもちろん、全国からかけつけてくれた闘う仲間の皆さんによって、この関西新空港反対を闘う総陣形がつくられていることに自信をもつことができました。敵は、四月二一日、岸和



あいさつにたつ 関川委員長

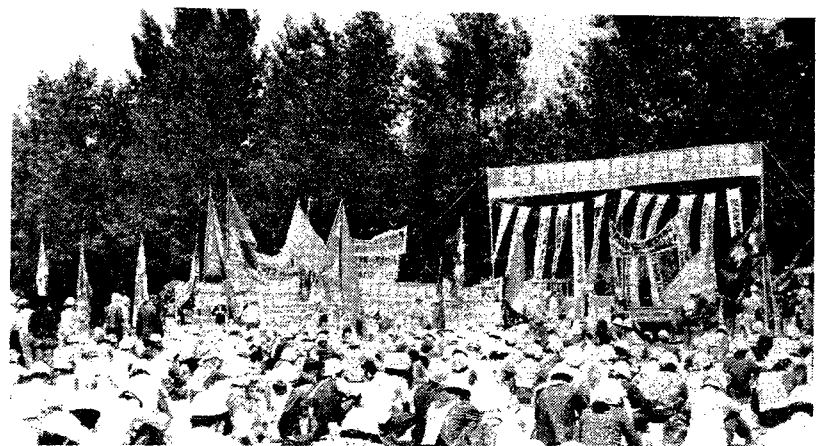
田、貝塚に突如として現地事務所を権力に守られてつくれた。これに反対した人々を色々理由をこじつけて逮捕した。しかし私たちはひるみません。五月十三日、閣僚会議で、国家的事業として年内閣議決定―八五年着工という内容で決定した。これに大阪府や財界も一体となって住民をふみにじる暴挙にでてきている。政府は、『泉州沖建設』が決定しているかのように宣伝し、なしくずしを狙っている。結局追いつめられているのは、政府であり権力であり、だから住民を『力』でねじふせる以外に進むことができないという姿がこの間はっきりとしてきた。これは三里塚と同じく、政府が倒されるか、住民が圧殺されるかの闘いであり、一歩もゆずれない全人民共同の闘いだ。本日の闘いを徹底的に闘い、六・一五―一〇・九の三里塚闘争の圧倒的高揚と固く結合して闘いぬこう」と鮮明な基調を提起し、満場の拍手で確認された。

## 関川委員長を先頭に、勤労千葉代表団も集会―デモを貫徹

勤労千葉はこの集会に関川委員長を先頭に各支部から青年部を中心とした代表団が参加して最後まで闘った。挨拶にたった関川委員長は、「八・八パイライン供用開始を、二期攻撃の天王山として勤労千葉はあくまでも反対同盟と連帯して闘う。関西の闘いをも全力で闘っていききたい」と決意を表明した。

こうして六・五集会は、日帝・中曽根の軍事大国化・改憲攻撃と真向から対決し、反戦・反核―三里塚と固く結合した闘いとして、大きな注目の中でかちとられた。

集会後、全員で大阪駅へむけ、堂々たる大デモンストレーションで大阪のド真中を席捲し、全一日にわたった闘いを胜利的に終了し、全員元気に帰路についた。



全国から1120名の闘う仲間が結集。（大阪・扇町公園）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！